

# 米原駅の不思議を歴史から探る



写真上/昭和元年の米原駅(「わが町 まいばら」より) 写真下/平成10年に新しくなった東口駅舎

## 最近米原駅の様子が変わってきた

今回は、米原駅の不思議に迫ってみたい。米原は、新幹線が停まる県内でただひとつの駅なのに、東海道新幹線の駅がある都市のなかで唯一の町。東海道本線と北陸本線が合流する重要なターミナルなのに、なぜか昼メシを食べるレストランがほとんどない駅前。改札口を通った途端に、高くそびえる魔の階段。降りるときも、大きな荷物を持っていると命がけだ。もうこれだけで「ほんま？」「なんで？」「けつたいな駅やな」と、不思議マークを頭に付けた人の輪が全国的に広がってしまうのだ。

ところが、最近、米原駅の様子がちよつと変わってきた。長年見慣れてきた東口が小さく、なくなって、駅舎もコンパクトでモダンな建物に変わった。その代わり、東の駅前に、近江鉄道の駅舎がポツンと残り残されてしまった。あの駅前は、これからどうなるんだろう。

いくつもあった在来線のホームが三つにまとめられて、東口から新幹線の改札口までの距離が少し短くなった。二番線と三番線、五番線と六番線、七番線と八番線という三種類のホームにまとめられて、電車に乗るまでの準備運動が少なくなったけど、通路がなんか古ぼけていて、明るく正しい旅立ちへの期待というものをイメージさせない。あの通路はどうなるんだろう。

## 「湖国の玄関口」が現実的じゃ

聞くとところによると、地元の米原町では、東まう。敦賀から長浜までの鉄道を敷くのがやっとなという状態。長浜から大津までは汽船でつなぎ、長浜と関ヶ原間の線路は民間資金でまかなうというツギハギ路線だった。

ところが、その後、政府の財政状態は急速によくなくなって。明治二十二年(一八九九)には、大津と長浜を結ぶ鉄道が開通。同時に米原と関ヶ原間も開通し、米原駅が北陸と東海道の分岐点になる。明治九年に計画されたルートどおりの路線である。

長浜が分岐点としての役割を担ったのは、わずか五年。やっぱり地理的な条件から見ると、米原に地の利があったわけだ。

明治二十六年(一八九三)当時の米原駅周辺の地形図を見てほしい。米原駅ができた直後の地図だ。山と入江内湖のあいだを縫うように、鉄道が走っているのがわかる。米原の町は、背後の山にへばりつくように南北に細長く伸びている。ちなみに、この内湖は戦後すぐのころ干拓されている。

米原駅の玄関は、町並みのすぐ西側に設けら



明治26年測図地形図(米原町史資料集「明治の村絵図」より)

## 米原駅の歴史

- 明治22年 7月営業開始。駅員22名
- 39年 本屋改良工事完成(昭和28年まで)
- 昭和6年 近江鉄道彦根-米原間営業開始
- 25年 陸線橋新設
- 31年 東海道線全線電化
- 32年 北陸線米原-長浜間複線運転開始
- 北陸線米原-敦賀間交流電化
- 39年 新幹線営業開始
- 42年 新幹線上り・下りホーム、待合室完成
- 43年 米原駅からS.I.消える
- 50年 新幹線ホームエスカレーター使用開始
- 61年 米原機関区廃止
- 62年 国鉄分割民営化
- 平成4年 4月から米原駅基盤整備始まる

口を再開発してバスターミナルや物産館(?)など、いろんな施設の立地を計画しているという。また、東西を結ぶ自由通路をつくって、その中央に改札口を設けるといふ計画もあるらしい。高度成長も遠く去り、バブルもはじけて去って、「どうしたんだ日本経済は!」的世紀末のどんづまり混沌沈滞先行き不透明状況になって、ようやく「新世紀に向けて湖国の玄関口」というキャッチフレーズが、現実味をおびるようになってきたわけだ。

湖北の人にとって、駅がきれいでも便利になるのは大歓迎。早く計画を具体化してもらって、「町なのに、なんでこんなに駅が便利で立派なの?」といった、新しい米原駅の不思議をつくってほしい。

そんなふうに変わりつつある米原駅だが、不思議はほかにもいろいろある。まずは、駅ができていろいろと変遷を経てきた歴史から、そのあたりの謎解きをしてみたい。

## 明治から広がる条地が少なかった

新橋・横浜間の鉄道が営業運転を開始したのは明治五年(一八七二)だが、実は、その前年に敦賀と京都間の測量が行なわれている。そして、明治九年(一八七六)には、京都から米原を経て塩津、敦賀へ至るルート案が示されている。京都と敦賀を結ぶ鉄道路は、明治政府にとって重要な路線だったわけだ。

ところが、西南戦争が起ころたりして、政府は戦費の支出で鉄道建設のお金がなくなっ

政府登録国際観光旅館

**旅館 紅点**

びわ湖を臨む全客室 宝湖の味と 尾上の湯

東浅井郡湖北町尾上  
TEL. 0749-79-0315  
FAX. 0749-79-1265

# 米原の味をつくる 駅弁の井筒屋



井筒屋代表取締役 宮村捨治さん

旅の楽しみの一つに、各地の駅弁を食べることがあります。そういえば、最近口にしたことがありませんでしたが、米原駅でもたしか売っていたはず。さっそく駅弁の井筒屋さんを訪ね、渉外係長の宮村捨治さんにお話をうかがいました。

本社は米原駅西口を出てすぐのところ。新しくスマートな社屋に入ると、すぐ左手の部屋では赤いカゴに駅弁を仕分けしている人たちが、その奥ではおかずらしいものを盛りつけている様子が、ガラス越しに見えます。

## 百年以上も続いた弁当の立ち売り

米原駅の駅弁の歴史は古く、百十年にもなります。日本で一番最初に売られたのは、明治十八年、宇都宮駅でのことですが、米原駅ではその四年後に始まっています。井筒屋で一番最初につくられたのは「幕の内弁当」、明治二十四年には「助六」を売り出しました。

井筒屋は、安政元年（一八五四）頃、長浜の船着場前で旅人宿を営んでいたのが始まり

で、汽車の開通を見越して米原に移転し、明治二十二年、東海道線全線開通とともに、駅弁の販売を始めた。当初は、鉄道員などを対象に十人ほどがずらりと並んで立ち売りをしていました。

昭和初期、駅前に建てられた洋館の社屋は、終戦の直前、強制疎開のため取り壊されてしまいました。戦後すぐに駅前で外食券弁当として発売を再開しました。プラットホームでの立ち食いそば、うどんは昭和二十五年から、駅弁のホーム売りは昭和三十六年から始まっています。パンやアイスクリームも売るなど、昭和二十、三十年代は、十六、七人もの立ち売りがあり、一番活気のある時代だったそうです。

その後、窓の開かない電車が増え、全国的に立ち売りの姿が少なくなってきたなかで、米原駅では二年前まで「お弁当、お弁当はいかがですか」という声が聞かれました。肩からかけた箱にお弁当を山積みにし、いい声を響かせていたおじさんの姿が、今も思い起

こされます。

## 地元素材が語りかけるような味

お弁当に付き物のお茶は、昭和四十一年四月に塩化ビニール製の容器に代わるまで、ちよつと持ち重りのする信楽焼きの汽車土瓶に入っていました。井筒屋に残されている汽車土瓶は、昨年豊田市で開かれた「変わりゆく旅の器たち」に展示されたそうです。

さて、お弁当ですが、現在十三種が作られています。とくに、昭和五十年代以降にいろいろな種類のものが登場しているのは、世の中のグルメブームを反映しているようです。なかでも、地域性を盛り込んだお弁当「新幹線グルメ」として新幹線の駅で扱っている人気メニューが「湖北のおはなし」。

鴨口ろすや海老豆といったびわ湖の味、山菜、こんにやくなど、湖北を味覚で語りかけるような食材を豊富につかっています。そのうえ、ご飯は「おこわ」。豆や栗など季節の彩りがあるだけでなく、ご飯の下に敷かれた

塩漬けの桜の葉っぱからは、ほのかな香りが漂う、うれしい逸品です。

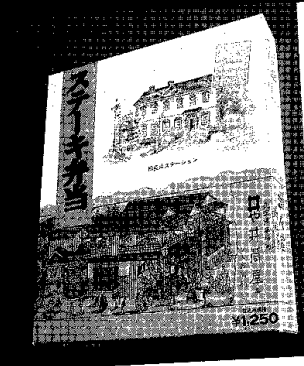
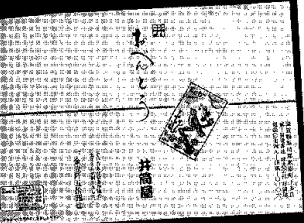
どのお弁当も季節感や地域性を出さなかに、各世代に合わせたメニューも用意されているので、電車のなかで食べるだけでなく、家でゆっくりいただくのもいいんじゃないでしょうか。うちも今夜は駅弁を楽しむことにしよう。

## 「湖北のおはなし」(一〇三〇円)

「新幹線グルメ」の一品。唐草もよりのふろしきに包まれて、箸の子風のお弁当箱に入っている。ご飯は豆や栗など季節の味が入った白おこわ。おかずはメインの鴨口ろす、ネギのめた、湖魚など多彩。ただし限定販売。新幹線車内と売店二カ所（北陸線上りホーム、新幹線改札口のそばのみ）

## 「京風おへん」(一〇五〇円)

掛け紙に描かれる花の絵が毎月変わる。ちなみに二月は「梅にうぐいす」。酢の物などのお菜入れに使われているべい呑みは、信楽学園の生徒さんがつくったもの。



湖北のおはなし

## 「近江牛ステーキ弁当」(二二五〇円)

近江牛一〇〇グラムをしょうゆ味で和風に仕立てたもの。箱のふたには、旅館井筒屋当時の様子が描かれている。

これのお手軽版である「牛肉弁当」は、お肉をスライスして、どちらも売れ筋だとのこと。

## 「伊吹釜めし」(九〇〇円)

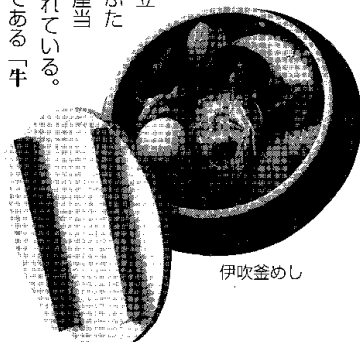
JRへの民営化記念に発売されたもの。何よりご飯がおいしく、近江米の産地の面目躍如。多治見産のお釜は食後も利用できる。

「うなぎめし」(共二〇三〇円) どちらも、ひもを引くと温まる加熱式のお弁当。浜名湖のうなぎも近江牛も、一番おいしい方法でいただける。

そのほか、竹の皮に包まれた「手拵えおにぎり」、ヘルシーなおかかごはんなど、紹介しているうちにお味見してみたくなりそうなメニューがいっぱいあります。

お家でいただくもよし、駅弁買って、電車に乗って、ゆっくりお遊山に出かける旅もよし。皆さんもたまには駅弁、いかがですか。

(左) (右)



伊吹釜めし

井筒屋のお弁当は、米原駅ホームの売店、立ち食いそばの店、特急しらすの車内（米原-長浜間）で求められます。ただし、種類によっては取り扱い場所が限定されています。TEL.0749-52-0006 FAX.0749-52-0179 URL.http://village.infoweb.or.jp/izutsuya E-mail izutsuya@mb.infoweb.or.jp